

2023年度(令和5年度)学校評価自己評価表

駅家中学校区	校番 82	福山市立駅家北小学校
最終更新日	2024年(令和6年)2月1日	

I 福山市

ミッション	福山に愛着と誇りを持ち、変化の激しい社会をたくましく生きる子どもを育てる。
ビジョン	「福山100NEN教育」の基本理念のもと、各中学校区・学校が「21世紀型“スキル&倫理観”」の育成に向けた特色ある教育課程を編成し、日々の授業を中心として評価・改善を進めながら、子どもたちの確かな学びを実現している。

II 中学校区

前年度学校関係者評価の主な内容	児童生徒の現状	育成する力 (21世紀型スキル&倫理観)	<中学校> 思考力 コミュニケーション力・協調性 意志決定力・志 <小学校> 課題発見・解決力 コミュニケーション力 挑戦する力
○コロナ禍で工夫しながら小・中で明確な目標を定め、細やかな取り組みをされている。 ○福山市の産業についてしっかり学び、「地元に戻ってくる」人材を育成してほしい。	○コロナ禍の生活によって、体力の低下が目立っている。 ○自己肯定感を高め、意欲的に活動できる集団づくりが進んでいる。 ○授業が面白いと感じ意欲的に取り組む児童生徒は増えているが、学力が定着していない。	めざす子ども像 (義務教育修了時の姿)	○日常生活の中に課題を見つけ出し、自分の知識を総動員して答えを導き出す。 ○他者との関係を協調的に築きながら、自分の考えを発信し、仲間と課題解決する。 ○自分の人生を切り開き豊かな未来を創ろうと見通しや展望を持ち自己決定する。
		中学校区として統一した取組等	○「主体的な学びによる思考力・判断力・表現力の育成」を研究テーマとする。 ・学力調査の分析から課題をつかみ具体的な手立てを研究し、授業改善を進める。 ・各種アンケート等による結果から、個別最適化を図り、子どもに「自己決定」の場を多く与える。

III 自校

ミッション 社会の変化に対応し、自らの進路を切り開き、豊かな人生を送ろうとする意欲の醸成	育成する力 (21世紀型スキル&倫理観)	課題発見・解決力	コミュニケーション力	挑戦する力
学校教育目標 主体的に学び 仲間と共に 伸びゆく子どもの育成	めざす子ども像	低学年 ○身近な問題に対して疑問を持ち、自分なりに導き出した答えを表現・実行する力	○自分の役割に責任を持つ力 ○自分の考えを伝える力	○学級・学年や家族の一員であることを自覚し、主体的に学ぶ力
現状 <児童> ○「授業が分かり、考えることが楽しい」肯定的回答…86% (全校児童) ○豊かな自然や、育まれてきた歴史や文化を教材とすることを通して、探究活動を楽しむ児童が増えてきた。 ○「自分は進んで体力づくりを行っている」肯定的回答82% (全校児童) △新体力テストの結果より、運動は好きだが、運動をする機会が少なく、柔軟性が低い傾向の児童がいる。 <授業> ○教科領域等の関連を図り、児童の興味・関心や、重点的に取り組むSDGsを念頭に置いた単元づくりを通して、児童の思考にそった授業展開が行えるようになってきた。 △思考ツールの活用や、ペア学習等を通して、児童の主体的・対話的で深い学びを実現しようとしているが、教師主導の授業もあり、児童一人一人の主体的な学びの保障が十分にはできていない。		中学年 ○地域や社会の問題に対して、持っている知識を関連付けて考え、自分なりに導き出した答えを表現・実行する力	○自分の役割や言動に責任を持ったり、助け合ったりする力 ○自分の考えを伝え、相手の考えを比較しながら聞く力	○学校や地域の一員であることを自覚し、主体的に学んだり難しいことにもチャレンジしたりする力
		高学年 ○様々な問題に対して、持っている知識や経験等をフル活用して考え、自分なりに導き出した答えを表現・実行する力	○自分の役割や言動に責任を持ち、共感的に聴きながらアイディアや知識を共有し深める力	○地域・社会の一員であることを自覚し、持続可能な社会に向け、主体的に学んだり困難に立ち向かったりする力
	研究 テーマ 「主体的な学びによる思考力・判断力・表現力の育成」 ～子どもが知的好奇心・意欲をもち、課題に向かって対話的に学び合う授業の創造～ 内容等 学びに向かう基盤である知的好奇心を高め、共に学ぶ授業づくりへ向けての教材研究	○持っている知識を関連付けたり自分で方法を判断・決定したりして、主体的に学び合う授業 ○児童同士の協同や対話により、自分の考えを広げたり深めたりして対話的に学び合う姿		

IV 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

福山市立駅家北小学校

年目	中期経営目標	重点	分類	短期経営目標	目標達成に向けた取組	評価指標	中間評価(10月1日)			最終評価(2月末)					
							□指標に係る取組状況	70%以上評価	達成評価	改善方策	□指標に係る取組状況 ◎短期(中期)経営目標の達成状況	70%以上評価	達成評価	総合評価	改善方策
1	主体的で対話的な学びを通じた、学力の定着	★	見直し	主体的に学びに向かい、粘り強く学び続ける授業づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の考えをもち、子ども同士の発言の関わりを深めながら、学び合える授業を行う。研修等を通して課題と取組の共有を校内で行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「授業が分かり、考えることが楽しい」児童肯定的回答前年度(86%)以上</li> <li>「課題の解決に向けて自分で考え自分から取り組んでいる」児童肯定的回答前年度(90%)以上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「授業が分かり、考えることが楽しい」児童肯定的回答(88%) 達成率【102%】</li> <li>「課題の解決に向けて自分で考え自分から取り組んでいる」児童肯定的回答(73%) 達成率【81%】</li> </ul>	3	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分から学習に取り組んでみようと思えるような課題を、児童と共に設定する。課題解決のための視点を提示したり、学習支援ツールの活用を促したりすることで、児童の意欲を育む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「授業が分かり、考えることが楽しい」児童肯定的回答(84%) 達成率【97%】</li> <li>「課題の解決に向けて自分で考え自分から取り組んでいる」児童肯定的回答(81%) 達成率【90%】</li> </ul>	3	2	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童が主体となるような授業づくりのために教材研究を深めていく。</li> <li>ICTを活用し、視覚的に分かりやすいものや興味をひきつける教材を作成していく。</li> </ul>
1	児童がいきいきと学べる学校づくり		見直し	児童の自己肯定感の高揚	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校行事、学級活動、児童会活動等を通して、肯定的に評価する場面を増やし、自己肯定感を高める。(担任外の教職員からの評価も児童に伝える。)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「自分には良いところがある」児童肯定的回答85%以上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「自分には良いところがある」児童肯定的回答(86%) 達成率【101%】</li> <li>道徳や帰りの会の時間等を利用して、友達のよさを伝え合う活動を行った。他者からの評価が効果的だった。</li> </ul>	3	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>良さを伝えるとき、「日直になった児童」「班の友達全員」などの指定をすることも取り入れ、どの子も認めてもらえる場面ができるように工夫する。行事後に、担任外からの評価も伝える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「自分には良いところがある」児童肯定的回答(86%) 達成率【101%】</li> </ul>	3	4	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>継続して、学校行事、学級活動、児童会活動等を通して、肯定的に評価する場面を増やし、自己肯定感を高める。(担任外の教職員からの評価も児童に伝える。)</li> </ul>
				体を動かすことの楽しさ、自ら体力づくりに取り組む	<ul style="list-style-type: none"> <li>柔軟性を高めるために朝の会でストレッチを毎日行い、習慣化する。運動する機会を増やすためにスポーツウィークの取組を行い、友達と体を動かすことの楽しさに気付かせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「自分は外遊びや体力づくりを進んでいる」児童肯定的回答前年度(82%)以上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「自分は外遊びや体力づくりを進んでいる」児童肯定的回答(73%) 達成率【89%】</li> <li>全校で行う運動(体育前の運動、朝のストレッチ)</li> </ul>	3	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>マラソン大会やなわとび大会に向けて、スポーツウィークを設定して運動に取り組ませる。</li> <li>1日1回外遊びをすることを基</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「自分は外遊びや体力づくりを進んでいる」児童肯定的回答(75%) 達成率【91%】</li> </ul>	3	2	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>朝の会に筋力を高める運動を毎日行い、習慣化する。</li> <li>体育の準備運動で鬼ごっこなどの走る</li> </ul>

			度の育成			等)を年度初めに確認したが、行っていない学級があった。			本として声をかけることで運動に親しませる。				運動を取り入れ、体を動かすことの楽しさに気付かせる。	
1	保護者・地域に信頼される学校づくり	見直し	地域の人材と協働した学校づくり	・地域の人材と協働したり、地域教材を活用したりする教育活動を実施する。	・各学年、年間2回以上実施	1年生1回 2年生2回 3年生5回 4年生2回 5年生1回 6年生2回 夏季休業中に教職員が地域のフィールドワークを行った。 達成率【66.6%】	3	3	・地域の人材を紹介し合い、地域のフィールドワークで学んだことを生かす等、地域教材の活用について交流できる時間設定をする。	1年生2回 2年生3回 3年生8回 4年生3回 5年生2回 6年生3回 冬季休業中にカリキュラムマップの見直しを行った。 達成率【100%】	4	4	4	・地域から学んだことを生かす等、地域教材の活用について交流できる場や時間設定をする。
1	教職員が元気で、児童に向き合える学校づくり	見直し	授業づくりのための時間の確保	・放課後の時間を確保することや、SSSへの仕事の依頼を計画的にする。	・「授業づくりにあてる時間が確保できている」前年度(78%)以上	・「授業づくりにあてる時間が確保できている」肯定的回答(73.1%) 達成率【93.7%】	3	3	・積極的な生徒指導をチームで行うことで、放課後の時間を確保する。 ・SSSへの仕事の依頼状況を共有する。	・「授業づくりにあてる時間が確保できている」肯定的回答(75%) 達成率【96%】	3	3	3	・積極的な生徒指導に引き続き取り組む。 ・教材や教具などを整理し、共有できるよう周知する。

[プロセス評価の評価基準]

評点	評価基準
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。

[達成評価の評価基準]

評点	評価基準
5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。
4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。
3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。
2	目標を下回り、成果よりも課題が多かった。
1	目標を大きく下回り、成果が認められなかった。

[総合評価の評価基準]

」	評価基準	
5	100%以上の達成度	十分に目標を達成できた。
4	80%以上100%未満の達成度	概ね目標を達成できた。
3	60%以上80%未満の達成度	ある程度目標を達成できた。
2	40%以上60%未満の達成度	あまり目標を達成できなかった。
1	40%未満の達成度	目標を達成できなかった。